

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立 鈴原小学校

教育目標		「心ゆたかで、たくましく、自ら学び、高め合う子」						
重点目標		①学力の向上 ②豊かな心の育成 ③健康で安全な生活づくり						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	ICTを活用する等、児童の興味関心を高める活動を取り入れた授業の実施	・iPadを活用した授業を各学級週1回以上実施する。 ・児童アンケートにおいて「分かりやすく教えている」「教え方を工夫している」の回答が85%以上。	B	・3学期以降、全学級に於いてiPadを活用した授業を各学級週1回以上実施 ・児童アンケートに於いて目標に達した「基礎・基本的な学習の定着において、個別の支援を必要とする児童が増加	・ICT活用についての校内研修を充実させ、各教科等の学習においてiPadをはじめとする機器を活用した学習を増加 ・家庭との連携や朝学習の時間等の活用によって、個別課題への支援を充実	・子ども主体の授業づくりにおいて、コロナ禍による弊害があったことは否めない。家庭学習の時間や量を確保しつつ、自ら学ぶ姿勢の確保に努めていきたい。 ・ICTの活用など順調に進み、年々効果が上がっている。これからの時代に必要な力であり、より良いツールとして活用できるよう更なる充実に期待する。	
		・思考力、判断力、表現力を育成する授業を展開する	・各授業において、各自の考えの交流場面を設定する。 ・授業の「めあて」を共有し、毎時間の「ふり返り」を行う。		・授業における「めあて」と「ふり返り」は定着したが、学習の理解を深めるために、「ふり返り」の内容についてステップアップが必要 ・感染症対策下における「共有化」について工夫する必要	・本校6年間の教育で培った思考力・判断力・表現力を明確にし、系統的に指導できるような全職員共通理解のもとカリキュラム・マネジメントに取り組む		
		・授業力の向上をめざし、同僚性のある職場風土を醸成する	・年3回以上の全体授業研究会を行う。 ・全教員が一人一授業以上を公開する。 ・自主研修会「まなべる」や研修報告会を実施し、研修内容を共有する。		・3回の校内授業研究会を行い、市教委指導主事から指導助言 ・全教員が一人一授業を公開し、相互に授業改善 ・感染症対策によって、十分な研修の機会を設定することができなかった	・講師を招聘した授業論についての研修や授業研究会を年6回以上実施 ・授業のユニバーサルデザイン化について、更なる共通理解 ・どの教員も他校研究会や研修会、オンライン研修等に参加できるよう職場環境の整備		
	読書活動の充実	一人ひとりの読書生活を充実させる	・学級文庫を充実させ、いつでも本を読める環境の充実 ・学校図書と連携を図り、週1時間の図書の時間を活用した読書意欲の向上	・「読書日記」を活用し、各自が読書の記録を残す ・「家読カード」を活用し、家庭と連携して児童の読書時間を確保 ・毎週月曜日に全校一斉の朝読を実施 ・児童の委員会活動や図書ボランティアと連携し、学校図書館の活性化を図る	B	・一人あたりの読書冊数は、7月約10冊、10月約13冊。学校図書館の貸出冊数は、一人あたり7月約7冊、10月約8冊 ・感染症対策として学校図書館や学級文庫の貸出に制限を設けたため、昨年度より減少 ・読書ボランティア「ブックベル」と連携し図書館の来館数の増加 ・「読書の木」の作成、「紙面ビブリオバトル」の実施、「学校図書館だより」の発行により読書意欲を喚起	・定期的に学級文庫の入れ替えを行い、読書意欲を喚起 ・「家読カード」を定着させ、家庭を巻き込んだ読書活動の実施 ・児童の興味や学習にあった蔵書の充実	・感染症対策による制約の中、児童の読書に対する興味や意欲を引き出す努力が感じられる。
個に応じた教育	・授業の展開を工夫し学習意欲を向上させる。 ・授業のユニバーサルデザイン化を図る。 ・学習習慣の定着を徹底する	・授業においてICT機器を活用し、学習内容の「視覚化」を図る ・ホワイトボード等を活用し、話し合い活動の「視覚化」を図る ・算数科を中心に個別支援体制を整える	B	・全学級に「めあて」「ふりかえり」「まとめ」のカード、学習タイマー、ホワイトボードを設置し、授業の中で活用 ・ホワイトボード、schoolTakを活用し、学習内容の視覚化を図ることで、学習意欲が向上 ・更に個別支援体制を充実させる必要		・教室環境や授業のユニバーサル・デザイン化について研修を深め、全教職員が共通の視点をもって改善 ・ICT研修会を実施し、教員のICT活用能力を高める ・個別支援や個別指導の時間を確保し、基礎・基本の学力の定着に努める	・授業のユニバーサル・デザイン化に加え、教室や体育館、運動場などのユニバーサル・デザイン化も重要である。地域と連携しながら施設のユニバーサルデザイン化に着手していただきたい。	
特別支援教育の推進	・児童の実態把握に基づいて個別の支援計画を作成し、適切な対応を行う ・それぞれの子ども、校内支援体制を確立する	・特別支援学級在籍児童保護者と年2回以上情報交換の実施 ・年1回以上特別支援教育参観(授業公開) ・通常学級に在籍する配慮を要する児童の特性や支援について校内委員会や校内研修会等で交流		・年2回以上の「なおよし懇談会」で情報交換を行う ・全教員が特別支援学級児童を理解するための特別支援教育参観を実施する ・月1回校内委員会を行う。 ・年2回以上の校内研修会を実施 ・コンサルテーションの実施等関連機関と積極的に連携する	A	・保護者の願いや児童の背景を知り、児童の特性を理解することを含め、児童理解は深化 ・感染症対策の為、個別の情報交換会 ・年度当初に「特別支援学級研修会」を実施し、児童の指導について共通理解 ・特別支援学級担任が授業公開を行い、全教職員が参観することで、児童理解 ・月1回行っている校内委員会や毎週水曜日の連絡会で、児童理解を深めたり、共通理解 ・校内研修会を実施し、伊丹特別支援学校のコンサルテーション、医療発達相談で受けた指導を共有	・保護者の願いを聞く機会を多くして、理解をより深めていく。また、保護者の願いを聞く研修会を企画していく。 ・年度当初と年度末以外にも、特別支援学級の授業の様子や、クラスでの様子を見学し、より多くの子どもをより深く理解するように取り組んでいく ・特別活動や学校行事等で全教職員が特別支援学級児童に関わり、児童理解に努める ・関係機関との連携をさらに深め、より多くの児童の理解を図り、支援を行う。 ・引き続き、伊丹特別支援学校のコンサルテーションを受ける。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、効果的な個別支援の実施に取り組む。	・授業のユニバーサル・デザイン化に加え、教室や体育館、運動場などのユニバーサル・デザイン化も重要である。地域と連携しながら施設のユニバーサルデザイン化に着手していただきたい。 ・児童一人ひとりの課題解決に向け、特別支援学級の担任だけでなく、全教職員による取り組み、支援体制の拡充に努めている。 ・保護者との連携を深め、児童の相互理解に努めている。 ・更に特長を伸ばす支援に期待する。
豊かな心と健やかな体の育成	豊かな心を育む教育の推進	・人との関わりを大切にすることの育成	・アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらった」の回答が90%以上。 ・児童アンケートに於いて「すでに挨拶している」の回答が80%以上	B		・児童アンケートの結果、約96% ・今年度は、感染症対策で学校行事がなくなり、児童にとって達成感ももてる機会の不足 ・児童アンケートの結果は、約91% ・外来者には進んで挨拶できるが、地域見守り隊等身近な人への挨拶に消極的	・各行事等において、目標を児童と共に設定し、その達成に向けて計画的に取り組む機会をもつ。 ・お互いのがんばりを認め合い、励まし合うことの大切さを授業等に含め取り上げると共に、教職員が率先垂範を行う。 ・教職員による率先垂範 ・児童会や地域と連携した挨拶運動の実施	・自己肯定感の育成と他人に対する思いやりの気持ちを育む基本となる「挨拶の励行」に家庭を巻き込んで取り組み、自分から気持ちよく挨拶できる児童が増えることに期待する。 ・今年度は、人間関係づくりに於いて、表情から推測することができない等、マスク着用による弊害が見られた。不登校や登校しぶりの解消のためにも、教職員のマスク着用について何らかの工夫が必要と考える。
	健やかな体づくり	・健康的な生活習慣の確立 ・自分の健康を考え、進んで体を鍛える児童の育成	・カリキュラムの見直しと系統表の作成 ・体育の授業の展開を工夫 ・冬期耐寒縄跳びの実施 ・全学級で「動的ストレッチ」を実施し、柔軟性を高める		B	・作成した系統表をもとに各学年の目標決定 ・教材研究を学団で行い、系統表を見直し ・冬期耐寒なわとびを実施 ・体育の授業に「動的ストレッチ」を実施 ・体育委員会が「お家でできる感嘆運動集」を編集し、全校生に配布	・系統表を活用し、どこまで到達できたかを調査 ・運動量確保のための工夫を紹介 ・タブレット端末を活用した授業を構想 ・体力向上に向けて体育の授業、休み時間の活動の見直し ・投げた力を高めるための系統的な運動について検討	・「耐寒なわとび」の実施など、家庭を巻き込んだ活動は評価できる。 ・今年度は、感染症対策のため多くの行事が中止となったが、制約下でもできることを考えるのも教育的配慮の一つであると考えている。
	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校の情報を発信	・学校だよりを月1回以上発行 ・学校ホームページを週2回以上更新 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなど積極的に情報提供を行っている。」の回答が85%以上			B	・学校だよりの発行が、後半に滞った ・自然学校をはじめ、校外学習は随時ホームページを更新 ・ホームページを通して、日常の児童の様子を紹介 ・保護者へのアンケート結果、93.8%	・「学校だより」を月1回以上発行 ・ホームページの更新は、週2回以上
安全管理	・危機管理意識の高揚 ・防災訓練・防犯訓練	・登下校の安全と安全指導の工夫改善 ・感染症対策の徹底 ・年間を通して、計画的、定期的な訓練の計画実施	・PTA愛護部および地域子ども見守り隊との連携 ・換気・手洗い・マスク着用の徹底 ・「か・て・ま・す」を合い言葉に手洗いと換気、マスク着用の徹底 ・教職員の共通理解、児童への事前指導の徹底。 ・訓練のPDCAサイクルの確立	A	・緊急時を想定した「アクションカード」を用いた研修会を実施 ・PTA、地域と連携して月1回の「子ども見守りDay」を実施 ・「か・て・ま・す」を合い言葉に手洗いと換気、マスク着用の徹底 ・学期に1回の避難訓練を実施した。 ・不審者対応訓練を警察と連携して実施 ・地域の方々のご尽力により、子ども見守りDayを、地域・保護者が連携して実施 ・引き渡し訓練は、感染症拡大予防のため、実施見合わせ		・引き続き、登下校や学校での安全な過ごし方、感染症予防について学級指導を進め、家庭への啓発 ・校内だけでなく、校外における危機管理も重要な実施を希望する。 ・不審者対応訓練、災害時の避難訓練等の継続的な実施をお願いする。 ・自分の命を自分で守るためには、思考力・判断力が必要である。具体的な育成を通しての思考力・判断力の育成をお願いしたい。	
施設管理	・清潔で活動しやすい環境の整備	・積極的な清掃活動の実施 ・クリーン作戦の実施	・クリーン作戦の実施 ・アンケートより、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の回答が80%以上		B	・保護者へのアンケート結果、86.4% ・コロナ禍であったが、地域の協力を得て「クリーン大作戦」を実施 ・特別教室棟、北館の空調セントラート化やトイレの改修など課題が残る	・トイレや手洗い場の使い方、掃除の仕方について統一できるよう、再度指導 ・トイレ掃除を定期的に地域ボランティアに依頼 ・施設改修の依頼を教育委員会に提出	・学校で用便等を改善することの無いよう、早期改修をお願いする。 ・トイレ清掃に自治協の「お助けマン」に相談していただき、改善に向けての工夫をお願いする。 ・クリーン大作戦の継続をお願いする。

学校関係者評価総括： 概ね適切な自己評価である。コロナ禍に於いても、児童一人ひとりへの指導や支援を行ったり、わかりやすい授業作りのために学校全体で取り組んでおられる姿勢が伝わる。今後、さらに保護者や地域と連携して、子どもの命と安全を守り、学校教育目標「心ゆたかで、たくましく、自ら学び、高め合う子」の育成に取り組んでいただくことを期待する。

次年度に向けた重点的な改善点： コロナ禍における制限により、教師主導の授業が多くなってしまったが、次年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの活用促進をはじめとする更なる授業改善に取り組む。「ユニバーサル・デザインの授業づくり」を通して、児童理解を深め、一人ひとりに活躍の場がある学校づくりを進める。また、保護者や地域と連携し、次世代の地域の担い手となる児童の健全育成に取り組む。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った